

## 金銭感覚にも個人差はある

宮崎県・都城市立祝吉中学校 2年 坂元 華恋

平成最後の夏、我が家に夏休み限定の新しいルールが追加された。それは、お手伝いをすることによって、それ相応の報酬が得られるという仕組みだ。

この仕組みは、夏休みの宿題であるお手伝いをこなすことと、定額のお小遣いのない妹や弟のために、そして、母を楽にするために考えた夏休み限定の特別ルールである。五人兄弟の長子である私は、必要な時にお小遣いを貰っているし、お手伝いをするのはあたりまえのことなので、そういった報酬は貰えない。つまり、このルールは普段お小遣いを貰えない妹や弟にとってお小遣いが貰える一大イベントなのである。

では、それぞれの報酬について説明する。ごみ出し、洗濯物を干す、それらを畳んだり、取り込んだりするなど重労働なものは一回につき一人50円。その他自分で気が付いた細かなものは10円となっている。それを彼らはお手伝いをした回数分だけ、カレンダーに正の字でメモしている。その後、夜に母が何を何回したのかを一人ずつ聞き、報酬を与える。頑張った人は、一日に200円近く稼いでいる。

私から見てこの取り組みにはメリットもあれば、デメリットもあると思う。まず、メリットは、みんなが手伝いをしてくれることによって、両親だけでなく家族みんなが快適に過ごせるということだ。普段ほぼ一人で家事をしている母が楽になることはもちろん、お手伝いをすれば夏休みの宿題もできるし、お小遣いも貰えるので彼らにとっては、一石二鳥である。その一方で、デメリットは、お金を稼ぐことが目的になりすぎているため、あたりまえなルールがおろそかになっているという現状が続いていることだ。ご飯の準備や片付け、使ったものは元の場所に戻すなどといったあたりまえなことが全くできていない。なぜこのようなことが起きるのかというと、こういったあたりまえなことをしても報酬が貰えないからだと思われる。確かに、報酬が貰えないものはやりた

くないという気持ちは分からなくもない。しかし、みんながそれをしないと、一大イベントに参加していない私や両親の負担は増える。私はその現状に対して不満がある。

このルールを追加したことによって、妹や弟のお金に対する考え方が変わったと思う。まず、小学6年生の妹は、お年玉で貰った5千円札を崩したくないがために、欲しいものを買わずに我慢していたが、お手伝いで得たお金を使い、欲しい物を買うようになった。またお手伝いをすれば貰えるので、気兼ねなく使えるらしい。つぎに、小学3・4年の年子の弟たちは、ガチャガチャやおもちゃなど後に使わなくなるようなものに無駄にお金を使ってしまい、お金の使い方が変わっていない。そのため、弟たちには、お金の使い方についても一度考えてもらいたい。そして、4才の妹は、今までどこかに出掛ける度に、一人だけお菓子などを買ってもらっていたが、自分のお小遣いで欲しい物を買うという目標を立てた。そして、今回のこの取り組みに参加することによって、得られる報酬のありがたみを学んだ。彼女は、その目標を達成するために、小さな体で一回50円得られるごみ出しや洗濯関係のお手伝いを率先して行っている。彼女の欲しい物を見に行ったとき、今までなら絶対に買えるまでぐずったり泣いたりしていたが、その時は、

「自分で買うからいい。」

と言い、あとどれくらいお金が必要なのかを問う姿も見られた。その後、おもちゃ売り場を離れると、やっぱり欲しかったらしく目に涙を浮かべていた。弟たちとは違い、大好きなガチャガチャを我慢してコツコツと頑張る姿は、健気で愛らしかった。

お金は、人が生きていく上で絶対になくってはならないものだが、お金を得るには働かなくてはならない。だから、夏休み限定のこの取り組みは、両親が妹や弟に、お金は働いた分だけ貰えるということや、自分で稼いだお金を上手にやりくりするにはどうすればいいのかを考えさせるために企画してくれたのだと思う。今、私たち兄弟が何不自由なく生活できているのは両親が一生懸命働いてくれているからだ。だから、今日からもう一度、今の自分のお金の使い方を見直し、お金の大切さを考え直したい。そして、いつも頑張ってくれている両親に感謝し、あたりまえなことやそれ以外のことにも全て今まで以上にしつ

かりと取り組んでいこうと思う。

